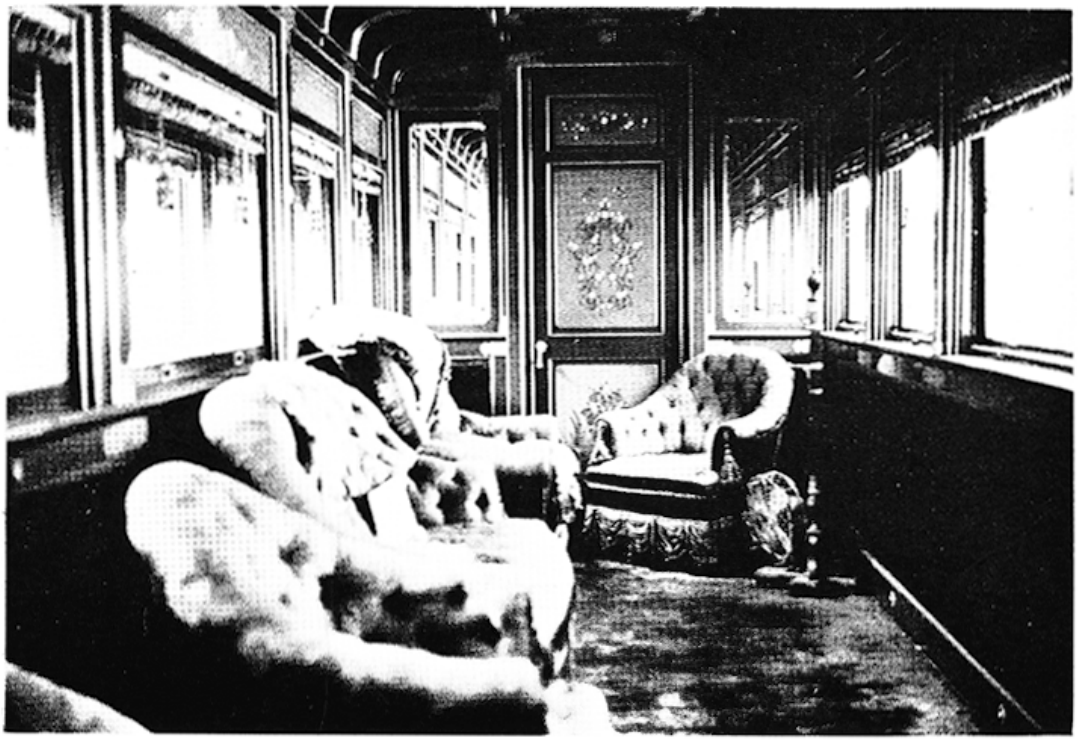
愛知の博物館

1967年1月 No.6.7.8.

愛知地区博物館連絡協議会



明治村の御料車

明治村　阿部愛次

御料車が皇室用のお召車であることはだれでも承知しているようであるが、御料車は明治9年神戸工場において製作され、同10年2月5日京都、神戸間の鉄道開業式にあたり明治天皇行幸のためはじめて使用されたもので当時は単にお召車、御料車又は玉車といわれていたが、明治40年頃から第何号と呼ばれるようになつた。

さて、どのような構造様式のものであるかということになると、同じ鉄道車輛であるが一部のものを除いては依然として雲の上の存在で知られざる事である。各御料車は、いずれもその時代の車輛技術の粋を集めたもので綴錦（つづれにしき）の化粧張り、桃山風の御殿造り、白木の神殿造り、彫刻、絵画あるいは螺でん、七宝等精魂のつくされた作品であると同時に、営業用の古客車のほとんど現存しない今日、雑形、中形、大形等それぞれの時代の客車の形態の一端をうかがうこともできるもので国鉄車輛の生きた変遷史の一部であり、その年輪を刻む貴重なる存在とおもう。

明治村の御料車は第5号（昭憲皇太后のお召）第6号（明治天皇のお召）の2輛である。その概要を順次記してみたいと思います。

御料車第5号

昭憲皇太后のお召しとして、初代3号（現13号）と同期（明治27年10月）に計画されたが、着工は3号の完成後となり、明治35年3月新橋工場において製作された木製2軸ボギー車で、大きさ、形態ともに大約3号、4号とシリーズをなし、その内装は、雑形2軸ボギー御料車の禅尾を飾をものである。

当初前後の御出入台は鉄さくの開放形であつたが、のち開戸つき密閉形に改められ、また外部も最初深紅色ペイント仕上げであつたが、大正4，5年頃同色のウルシ塗りに変更された。

内部は前位より大膳室、女官室、玉座室、御寝室、お化粧室および御閑所、供奉員室の6室に区分されている。

玉座室・・・車体の中央にあつてけやき材で構成されており、腰羽目は正円地藤唐草雲型枠模様の厚地ドンスで張られ、天井はすべて桐まさ板を使用、両側の下天井には帰がん、来燕の図（川端玉章筆）が描かれ、中央天井は金砂子で雲彩を現わし、左右の窓には白茶色で腰張りと同紋同地の絹ドンス製引　日除けを設け、床には絹糸織の花紋および唐草模様の段通が張られている。室の中央窓側に玉座用として、桑材彫刻の大形安楽椅子が置かれているが、この椅子張地は腰張地と同紋同色の毛切紋ビロードで金糸入り飾り房がつけられている。その前面には桑製銀金具の御卓子を置き玉座の左右には侍官用椅子4個が配されているが、この装飾はすべて玉座用と同じである。

御寝室・・・玉座室の後位隣りで、御寝台は前後を桑材の彫刻で装飾し、玉座室の椅子張地と同じ裂地のフトンを置き、寝台の前面には玉座室の腰張りと同じ裂地の飾房つきドンチョウをたらし、回転椅子1個がおかれている。天井は桐まさ板を張り、これに桜花、葉交枝の図（橋本雅邦筆）が描かれ室内前後の羽目には桑縁に菊唐草模様を浮彫りにした姿見鏡をあい対してとりつけてある。日除けおよび敷物はともに玉座室と同じである。御寝室前の通路の天井および腰羽目は、台湾産の樟板が使われているが、これは児玉総督が特に本車用に献じたものといわれている。

お化粧室および御閑所・・・御寝室の後位隣りに1つの区分室となつており、前位をお化粧所、後位をお閑所とし、お化粧所には御寝室と同じ鏡がおかれている。手洗器は記録によると追つて設備されることになつていた

が、現在もとり付けられた様子が認められずどの様な使い方をされたのか不思議に思われるものである。

御閑所の床はお化粧所の床より一段高く中央に邦風黒ウルシ塗りの避箱を備え、お化粧所の境は海老茶色唐草模様のアンペラ織に同色のドンス裏地つきのドンチョウで仕切られている。天井は桐のまさ板張りで、日除け及び床敷物は玉座室と同じである。窓ガラスはスリガラスに桐唐草の輪かくがつけられている。

女官室・・・御座所の前位に隣りし、左右両側に陛下昇降用の出入口があり、室の両側に濃円地色ビロード張りの腰掛、仕切の両側に　縁の鏡を備え、天井は桐のまさ目材を使用、中央天井には金砂子で雲形をほどこし、左方にカエデ葉、右方には桜花の図が描かれている。

大膳室・・・最前位にあり、革張り腰掛を設け、大膳用品の物置きとしてつり棚、隅棚を備え、床は油布（リノリウム）を張つてある。

供奉員室・・・最後位にあり、カバ色毛切ビロード張りの大小の長椅子各１個が置かれカエデ枠の姿見鏡が置かれている。

その他・・・窓日除けはお化粧室にはないがその他の各室は御座所のものと同じであり床敷物は大膳室を除いて絹織段通である。

換気装置はトルベット形通風器をお化粧室および大膳室に各２個供奉員室には１個を設けてある。

照明装置はストーン式発電機および蓄電池２４個予備１２個により点灯されるもので、５燭光１７個を各室の大小に応じ、藤花模様黒イブシの座および菊花すかし彫のホヤの装飾灯具に納めて配置してある。

台車は現在明治４５年度の基本と思われるものが入つているが、制動装置は全くなく、これは騒音防止の意味で他車に依存したものであり、また揺れマクラ落下防止のため、この受金具がつけられている。

本車は前文のとおり明治２７年１０月に計画され、その主要材料も２８，２９の両年にわたり選定収集したもので、３１年１０月第３号の完成に続き、この設計にかかり３２年度末に構造の確定をみ、３３年６月に起工、３５年４月に竣工したもので、計画されてより完成までには７年有半、完工期１年１０ヵ月、この製作費は２６，４６０円を要している。本車は昭和３４年１０月鉄道記念物の指定を受け、大井工場の御料車庫に保管されていたものを今回明治村に移し一般に展示することとなつた。

御料車第６号

明治天皇のお召として、明治４３年１０月新橋工場にて製作され、のち大正天皇のお召となつた。本車は御料車として３軸ボギーの最初のもので、車体は当時制定された基本形となり、車長も２０ｍに増大されたため、従来の御料車に比べ非常に余裕のあるものになつている。台枠は中央トラス棒であるが、両側を魚腹形にしためずらしいもので、台車もまた他車にみられないツリ合梁およびツリ合バネ座一体の特異な形をしている。

外観は中央部に菊花御紋章を、その両翼に桐の御紋章を配し、周囲には菊、桐の小形紋をちりばめてあり、軒飾りは歯形彫とし金粉で彩られている。軒部には持送り式に彫刻数箇所を配し、幕板中央には鳳凰の向い合わせの浮彫りが取付けられ、台枠、車体を通じ多くの描金が施され「さん然として輝くこと御料車中随一なり」と言われたものである。

内部装飾は螺でん、まき絵、木画（木象がん）七宝等の美術品や　江錦や大和錦の織物を使用、オサ式垂木造り、酒色のウルシ塗等の手法が取入れられているが、これはこの後の御料車の様式に先べんをつけたものと云える。室の割付けは前より大膳室、侍従室、御座所、侍従室、御寝室、御　の各室が配

置され、侍従室外側に御出入口があり、開戸を設け、踏段は引出式になつており、両端の出入口は単に通路として使用されるだけである。主材はチークその他はヒノキ、米松、窓枠や鴨居等はカリン材を用いており、各面類にはすべて描金が施されている。

御座所・・・上天井は格天井式で亀甲形に菊花を配した　江錦張り、下天井はシリン垂木造りオサ式で絹張りとし、妻櫛形には菊紋および両翼に鳳凰を配した七宝の飾りがつけられている。幕板は大和錦ではり中央に御紋章を桐、菊等でだき合わせにししゆうをし、腰部は深紅色のビロードを浮出しヒダ取りをしてはつてある。前後の引戸は黄色および藤円地色のウルシ地に桐と鳳凰および蝶の図を螺でんと高まき絵で表現している。化粧金具は御紋章入り七夕彫りのものを各所に配し、窓枠は摺ウルシ塗り、網戸はご紋章入り絹しやを用い、巻揚カーテンは段こはく（当初はご紋章入り織物）で下方に房飾りがつけられている。椅子は菊花および花の角菱模様を金糸で織つた絹ドンスに紫色ビロードを上張りにしたもので玉座用２個、小形のもの２個をおき、このほか備品として大卓子１個、小卓子２個、隅棚２個、　台および剣掛等がおかれ、室内の面積にはすべて描金が施されている。

侍従室・・・前位寄りの方がやや大きいが２室とも構造装飾は同じである。上天井、腰張り、窓装置、化粧金具等は御座所と同じであり、上天井は　　板に種々の銘木の木象嵌により花鳥に雲を配した図を現わし、薄い木地塗仕上になつている。幕板は大和錦ばりで妻櫛形は色ウルシ塗りにまき絵および螺でんをほどこしてある。備品は椅子３個、隅棚１個、暖房被１個、ただし御寝室より侍従室は椅子２個である。

御寝室・・・上下天井、幕板、窓装置、化粧金具、腰張等は御座所と同じく櫛形飾りは色ウルシ塗りに螺でん、まき絵をほどこしてある。御寝台の前面には金糸飾りをした紅色のドンチョウを廻し、前後の壁にはそれぞれ異なつた花蝶の図の緞錦を張りつめ、天上もまた白茶色の絹織物をヒダ取り式の飾りばりにしてある。化粧金具はすかし彫りのものを適宜に配し、鴨居としてカリン製ウルシ塗り、すかし金具つきの御化粧卓を備えてある。

御　　・・・洋便器を備え、枠類は酒塗式。天井板、化粧板は　玉　で摺ウルシ塗である。

大膳室・・・縁類は酒塗り、天井および側化粧板はけやき材の摺ウルシ仕上げ、化粧金具類は黒色である。長椅子１個、廻転椅子１個ともに革張り、つり棚、おき戸棚２個等を備えてある。

その他・・・出入口、ろう下もすべてウルシ塗りで描金をほどこしてある。床は大膳室だけリノリウム張りであるが、ほかの各室は段通が敷かれている。

本車は大正天皇の御大典にも使用され、昭和６年九州大演習に際し今上天皇の行幸時、すなわち鋼製御料車出現までその任にあつたもので、今次大戦中大井工場の御料車庫において焼夷弾による被害をうけたが、幸い後位寄り侍従室一、三位側、外面をこがす程度にとどまり、内部に異状はおよばなかつた。本車も御料車とともに昭和３４年１０月鉄道記念物に指定され、大井工場の御料車庫に保管され、この製作費６４，２５３円である。

５号御料車と共に今回明治村（御料車庫も移築）に移して一般に公開することになつた。

茶　博　物　館

実在する茶博物館の話しではない。実在しないが故に是非とも実現したい、この願いが常に頭のどこかに潜んでいる。これが時間とともに実在するかの錯覚を起し、知らぬ間に茶博物館という言葉が出たり、文字になつたりしてしまう。

現在、世界中で日常生活に茶が使われない国は極めて少ない。少なくとも近代国家といえる国のすべてが茶を飲んでいるといえるだろう。空気と同じように、余りにも生活の中に入り過ぎてその価値が認められないのではないか、あつて当り前である。まさに日常茶飲事である。ことに日本では茶が精神文化に大きな影響をもつており、日本文化の代表とまでいわれている東洋精神を基調に日本人の日常における生活マナーを築き上げしかも、芸術に近いまで仕上げたもので実にあつぱれである。

愛知県における、茶のレベルは高い。その消費量をみても全国有数である。ことに抹茶の消費については全国一である。この抹茶の生産においては全国の7割が、県内の西尾市で生産されている。尾張地方における、茶の風習は、野良仕事の一休みに抹茶を飲む。これ程生活に密着した茶は他には見　ことができないだろう。

このように茶に関しては、全国有数否むしろ日本一の茶所の名古屋に日本は勿論のこと世界にも類をみない茶博物館の企画が提案されても決して不自然ではない。むしろ最もふさわしいものと自負する。名古屋の茶博物館へ行くと〃世界中の茶のことが解る〃しかもその味もみることができる。これが本当に腹のそこから味わうことができる、というものだろう。物心両面に茶の効用があるのは日本を除いてどこにあろう。そうした日本に茶の総合施設として当然あるべきと思うがどうだろうか。

ひるがえつて、愛知県内の文化施設（特に博物館）を見るとき何が映るだろうか。昭和40年出版建築設計資料集式（日本建築学会編）を見ると次のごとくである。博物館の種類が4種類ある。この中で本県にあるのは、美術博物館のみ、あと3種類は0となつている。3種類0の項にランクされるのは愛知県以外には見当らない。これを人口別にみると次表のごとくである。（1館当り人口）

オーストリア	15000
オランダ	23000
アメリカ	25000
フランス	40000
イギリス	56000
イタリー	85000
日本	200000

日本全体が所謂世界の近代国家といわれるグループの中では最低、それもケタ異いである。本県の実情をこれに当てはめてみると、数字にするには若干気がひけるが〃100万人に1館〃となる。こうなると後の文字が続き難くなる。上記資料は昭和40年であり、その後の変化あるいは博物館に相当するものが本県には相当数あるように聞いているからこの数字にこだわる必要はないと思うが。

全国有数な富有県であり、日本三大都市の一つとしての名古屋であるが、ことに文化施設については恵まれていない。両者のギャップが大きすぎる。郷土の誇るに足る文化資料は、探せばいくらでもある様に思う。要はこれを如何にして保存、育成するかにある。教育とか文化施設は、今直ちにその効力が現われない。今現われないが故に、常に保護、育成する必要がある。郷土の限りない発展を考えるならば、日本の最低、否世界の最低ともいえるこの汚名を一日も早く返上すべきではあるまいか。郷土の識者の開眼を心から願うものである。

茶の起源研究会　幹事
南栄町　　松下　智

学を作ろうとする気運があります。その一つがこのルール大学で、まだ去年できたばかりで、学生は５，０００人ぐらいしかいませんが、完成しますと２５，０００の学生になるという予定で今盛んに建築をしています。その大学の付属として天文関係、まだ教室も天文台も出来ていませんが、一般の天文教育の普及という意味でプラネタリウムと今非常に問題になつている宇宙工学といいますか、宇宙無線の問題を取り上げて大きな受信装置を作つていて、天文台ができるとプラネタリウムと天文台と宇宙受信装置の３つを一つにして天文教室を作るという話でした。ドームの中の写真が撮れませんが、ちようど私の所のプラネタリウムと同じ大きさで、シートが、２４０しかありません。２４０しかないということは、シートが非常に大きいのです。帰つてさつそく私のところのプラネタリウムのシートに腰かけてみますと、幼稚園の子供がすわるような腰かけのような気がして、少しも気持がよくありません。行く前はなかなか立派な椅子だと思つて感心して腰かけていたのですが、このボーヘンのプラネタリウムはちようど新幹線の１等と２等の差以上の差を覚えました。国力の相違といいますか、生活程度の相違といわざるを得ないと思います。ここで非常に面白かつたのは、ドイツは割合にプラネタリウムでも教育的で、プラネタリウムの講演をしていても、非常に淡々とした専門的な話をしていました。だれ１人笑う人もいません。講演が５０分か１時間ですが済むと必ずｑｕｅｓｔｉｏｎといつて質問をさせます。この質問が２０分位はいくらでも受けてやるというようなことで、日本及びアメリカと非常に違つたところです。そしてもつと面白いのはプラネタリウムというのは御承知の通り暗くなつていて、音楽も眠るようなものをかけますから寝る人も相当あるのですが、あそこは炭鉱地方ですからちようど開いている時には見ませんでした。しかし館の人の話では、炭鉱に入る時に帽子の先にランプをつけて炭鉱の中を歩きますが、その帽子をかむつて観客の中へ入つて眠る人があると、つついて起すのだそうです。日本ではとてもこんなわけにはいきませんが国民性の相違でよく眠るから起しますという話をしていました。ミュンヘンでは起して歩くようなことはしませんが、どうもボーヘンという所は少しやかましい所だと思いました。

次に、有名なミュンヘンの科学館ですが、丁度科学か何かの国際会議をやつていました。ここで有名なのは、皆様も御承知のようにエレベーターで地下におりますと炭鉱のいろいろな実情を見せています。実際の炭鉱を都会で見せるというのが大きな呼び物になつています。炭鉱は現在斜陽産業になつているので意気がありませんが、設備は実際の炭鉱へ入つたのと同じ感じです。

ワシントンでもパリでもロンドンでもそうですが、歴史をもつている所は古い飛行機や船も並べていますが、新しい所はこういうまねが出来ないのでモデルを使つています。

ベルリンの動物園の中にある展示場は面白いものでした。ミツバチの巣にミツバチが入つてくるようになつていますが、部屋の中のガラス張りの中に巣があり、ハチは私たちと関係なく通路から出たり入つたりできるので密をもつてくる様子がよくわかるようになつています。

パリの発明館、要するに科学館ですが、発明館といつても国立です。これは展覧会のあとにパリ大学に所属させたものの一部でアトムのいろいろなものを並べてあります。特に科学実験室ではいろいろな実験をして生徒に見せるのですが、行つた時にはちようど水溶液の電解の実験を高校の生徒に説明しており私達が大学でしたようなことをやつていました。学校ではとてもできそうにない実験をここでやつていて、非常に教育ということを主にしています。そして発明館という名前をつ

愛博協第２回研究会

欧米の博物館をまわつて

久恒名古屋科学館長

私は６月５日から１３日までドイツで第２回プラネタリウム国際会議が開かれましたので、それに出席するために出かけて行きました。それが済んですぐベルリンのプラネタリウムを見て、それからイギリス、アメリカを回つて７月７日に帰つて来ました。今日は私が見て来た博物館の事情を申し上げます。意見も何もなくてお役に立ちませんが、特に科学館を主として見て来ました。美術館はどこも写真を撮ることを禁じている所が多くありました。フランスは割合にフリーですが、アメリカでは絵の写真を撮るのを非常に禁じていて写真は撮れませんでした。そんなような事情で、今日は主としてむこうの科学、私の関係している科学博物館に限定されるきらいがありますが、御了承願います。

今度の会議でオツクスフォード大学のスワンという博士とよく一緒に話をしましたが、このスワンさんという人はこの９月２０日からカナダに行き、トロントでスワンさんの口からいいますと「世界的な大博物館を作るんだ」という。カナダ政府が今度作るらしいのです。それの館長として赴任するが、自分は文化系統のもので、美術の方は相当勉強しているが物理科学の方は苦手で、特にプラネタリウムをカナダに置くということなので、それでこの会議に出て来たのだといつておりました。この方は日本にもう５，６回ぐらい来たことがあるというので、片言の日本語はしやべれますので、日本語と英語で話をするとちようど話がよく合いますので、会議中いろいろお話を伺つたのです。その時に日本の博物館の問題につきまして、私は自分のところの科学館は新しくできたばかりで、まだ内容も充実していないのと、東京にもあるけれどもこれも満足すべきものではないので、ぜひいろいろな先輩の国の様子をみて、何とか内容を充実したいと思うという話をしたところスワンさんは「いや、日本の博物館はなかなか立派です」「上野博物館も立派だ」といい特に私がうれしく思つたのは「名古屋の徳川美術館は非常に立派です」「ああいうような立派な美術品を持つていて、非常に保管も上手におやりになつている。自分は徳川美術館に行つて非常に参考になつた」とスワンさんは言つておりました。こういう話を伺いますと、外国のいい話ばかりしていますと、先程言いましたような灯台もと暗しのそしりがありました。しかし、私の関係しています科学館につきましては、やはりできたばかりで、何と言いましようか、幼稚園か小学校へ入つたばかりぐらいな段階で、外国の博物館に比較して、やはり一歩も二歩も遅れが目立つています。そういう関係で私が見てきた印象的なものといいますか、そういう博物館の紹介をさせて頂きたいと思います。それで、話よりもスライドによつて折にふれ、時にふれ、私の考えたこと、感じたことを申し上げたいと思います。

今度行きました第２回プラネタリウム国際会議は、第１回が１９５９年にニューヨークでありましたがそれから後ずつとありませんでした。今度ドイツのボーヘンといつて、ルール炭田のちようど中心で、ボーヘンの人に言わせるとここがルール炭田の中心だといいますが、他の人に言わせますとエッセントいいますが、人口約６０万位の都市で、そこに新しくルール大学というのができました。ドイツは、御承知のように大学は非常に権威がありますので、たくさん作らなかつたのですが、この科学技術の進歩に対しまして、技術者が足りなくなりますし、お互いの研究者、それの専門の教授なども非常に手薄になつたので、急に大学ブームになり、各地に現在大

けているので技術史的ないろいろな学問あるいは工業がどういう過程を経て発達してきたかということを大変詳細に説明、展示をしていました。

なぜ科学関係の話ばかりかと言いますと、どうも私の所の科学が非常に弱いという評判があり、子供の興味があまりなさそうなので科学関係はどういうふうにしているかという事を考えていたのです。

次のロンドンも国立でとても大きいように考えますがそれ程でもありません。工作機械のサンプルから、高度なミリングまで集めていてそれを動かしていました。機械工業のいろいろな進歩をみせるのには非常によく出来ていました。また飛行機のモデル、１９１４年から１８年の間どんなものだつたかというようないろいろなモデルがあり、実際のものも展示していました。

ワシントンにはいろいろあります。国立のような大きな所では皆教育的なものが多くあり、教育を主にした展示や説明をやつています。ワシントンのスミソニアン研究所もそうで、スミソニアンさんが英国人ですが、アメリカ文化のためにというので全財産を寄付して作られたのです。この一角には自然史、理工学、美術の各部門にわたつての博物館があり、たいへん面白く古代から現代を順序よく並べてありました。ここでは死後２０年たたないと常設展示をしてくれない。絵画ですが２０年たたないと本当にその人の真価というのはわからないというので２０年たつと常設展示になる。しかしそんなことをしていると現代のやはり優秀な巨匠がいるはずなのでそういう人のために１階に相当広いスペースがあり、現代の人の展示場があります。大部分は過去の人のものです。

シカゴにある自然史博物館は非常に大きな展示場をもつています。Ｎａｔｕｒａｌ Ｈｉｓｔｏｒｙで面白いのは、ここで宿題を出すのです。シカゴに飛んでくる渡り鳥の種類はどんなものか、また渡り鳥はどういうような巣を作るかというような項目がずつとありました。中を見物しますと解答ができるような問題を出し、正解者には賞品を出すということでした。そういう教育ということに重きを置いております。

まだまだボストン、カリフオルニアなどの博物館などたくさん御紹介したいのですが、これくらいにしておきます。

結局グルツと歩いてみて歴史のある古い国はオリジナルなものからその進歩した過程、それから現在に至るまでのものを実に手ぎわよく展示しています。博物館自体の伝統の深さには全く頭の下つたことでした。

葉山観光館

神奈川県葉山町は三浦半島の西北部に位置し、北を逗子市に東南を横須賀市に接しておりその西側は相模湾に面している。葉山観光館は皇太子殿下の御成婚を記念して葉山町が県立葉山公園（葉山町下山口１４４５、御用邸付属の旧馬場）の一隅に建設したもので昭和３６年４月１日開館一般に公開している。

海辺近くに建てられた鉄筋コンクリートの白亜の２階建、階下は事務室、資料室で２階が標本展示室になつている。２階の特別室には天皇陛下が多年に亘つて相模湾で御採集になつた標本が、御下賜標本として展示されている（２８点）。御専門のセンナリウミヒドラ、ハネウミヒドラなどのヒドロゾア類をはじめ、クラゲ、ウミウシ、ウニ、ヒトデ類およびホヤ類などである。この他に葉山を中心とした付近の鳥類（山階鳥類研究所出品）、昆虫類および魚類、貝類などの動物標本をはじめ、植物および葉山沿岸の海そう類が展示されている。

また葉山付近から発掘された化石類、出土品および旧家につたわる古文書なども展示してある。現在葉山沿岸の海産無せきつい動物類の採集に努力しているので近い将来これらを中心とした動物の代表的のものを展示することができると思う。以上のように名称は観光館であるが内容的には葉山付近で採集したものを中心とした葉山郷土博物館ともいうべきものである。

葉山観光館長　川瀬源蔵

豊田市立郷土館

豊田市立郷土館が、１月中頃開館する。同郷土館は、豊田市内に散在する貴重な文化財などを保存すると共に、一般に公開しようと昨年暮工費約１，２００万円で同市緑中町に造つた。鉄筋コンクリート平屋建で２２５平方メートルの展示室と７５平方メートルの収蔵庫の２むね。

同市教委では、昨年１０月頃から文化財保護委員会の協力で市内の民家にねむつている書画、刀剣類の調査をしていたが、立派なものが続々見つかり、所有者の理解で一般に公開されることになつた。

１５日（予定）の開館を前に、同教委では飾りつけを急いでいるが、大塚古ふんからの出土品をはじめ挙母城時代の古文書、よろい、かぶと、民族資料など約６０点が展示される。展示品は年に三、四回取り替え、今まで市役所の倉庫などにねむつていた文化財を全部公開、一般に豊田の昔を知つてもらうと共に、小、中学、児童、生徒の社会科の勉強に役立てる。

発行者　名古屋市中区愛知文化会館内
愛知地区博物館連絡協議会
編集者　日本モンキーセンター　広瀬鎮
豊橋向山天文台　金子功
豊橋向山天文台印刷